

教 育 研 究 業 績

2019年5月1日

酒 井 雅 子
博士（教育学）

研 究 分 野		研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド	
教育学 哲学		国語教育 単元学習 クリティカル・シンキング教育 子供のための哲学 探究型学習	
主要担当授業科目 国語科指導法 国語 子どもと文学			
教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項			
事項	年月日	概要	
1 教育方法の実践例 1) 国語科単元学習の実践	昭和 61 年 4 月～昭 和 63 年 3 月	行田市長期自主研究員として、2 年間、国語科単元学習を実践研究した。学習者一人ひとりの言葉の力、豊かな心を育てるべく、物語・短編小説の鑑賞と物語創作をタイアップした単元を初め、様々な国語科単元学習を開発・実践し、研究成果報告書「心豊かな国語教室を求めて」にまとめた。	
2) 学際的な、総合単元学習の実践	平成 16 年 11 月	多資料・多活動・個性尊重を特徴とする探究型学習として、総合単元学習「バリアフリー社会に思う」を実践し、国語教育学会で発表した。	
3) 論理的思考を習得・活用する授業	平成 21 年 4 月～現 在	東京都立荏原看護専門学校、慈恵看護専門学校の論理学の授業で、非形式論理学に基づく思考スキルの知識を習得し、文章表現や討論の場で活用する授業を行った。	
4) WEB システムを使った授業支援	平成 27 年 4 月～平 成 29 年 3 月	早稲田大学の国語科教育法の授業で、WEB 授業システム CourseN@vi を使い、学生が授業時間外に書いたレビューにコメントを返したり、事前に授業資料をアップしたりして、学習意欲・学習能率を高める授業をした。	
2 作成した教科書、教材 1) 『読書生活者を育てる』東洋館出版社 (安居総子・東京都青年国語研究会編) (再掲)	平成 17 年 7 月	読書生活指導の授業指導 2 案 執筆	
2) 光村図書『「話すこと・聞くこと」「書くこと」指導の方法—中学校国語学習指導書別冊』 (再掲)	平成 18 年 2 月	『中学国語』教科書に準拠した教師用指導書 (報告の章 執筆)	
3 教育上の能力に関する大学等の評価 1) 平成 27 年度の学生による授業評価	平成 28 年 3 月	平成 27 年度後期授業「国語科教育法」の学生アンケートの集計結果によれば、「理解を深めるための工夫」「学生の参加を促す指導」「学生のレベル・理解度の把握」の各項目で、平均値が 9 割を超えている。	
4 実務の経験を有する者についての特記事項 1) 大学からの教育実習生の指導	昭和 61 年 6 月	国語科の実習生を指導した。	
5 その他 1) 博士論文が学術研究書に採択	平成 27 年 12 月	博士学位論文「探究としてのクリティカル・シンキング教育——リチャード・ポールの多重論理の問題探究理論を基軸にして」が、早稲田大学における学術研究書の出版助成制度で採択された。	

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格, 免許 1) 中学校教諭専修免許状 (国語) 2) 高校教諭専修免許状 (国語) 3) 学校図書館司書教諭講習修了証 4) 日本語教師養成通信講座 修了	平成 19 年 3 月 平成 19 年 3 月 平成 15 年 12 月 平成 3 年 6 月	東京都教育委員会 中専 1 1 6 3 7 号 東京都教育委員会 高専 1 2 0 6 0 号 文部科学省 2 7 4 4 9 2 号 N A F L 日本語教師養成通信講座
2 特許等 —	—	—
3 実務の経験を有する者についての特記事項 1) 北埼玉地区教育心理主任会 副委員長 2) 行田市立図書館の協議委員会委員 3) 国語教育史学会 運営委員会委員 4) 日本国語教育学会の全国大会の運営 5) 広島大学教育学研究科主催「第 1 回 E S D コンソーシアム」にて講演 (文科省・ユネスコ後援)	昭和 59 年 4 月～60 年 3 月 昭和 61 年 4 月～62 年 3 月 平成 19 年 4 月～現 在 平成 29 年 8 月 平成 30 年 7 月	埼玉北部地区の公立学校の教育心理・教育相談主任を統括した。 図書館運営に関する協議、県外図書館の視察をした。 会員数 8 0 余人の学会の例会・総会の運営、会計などを行う。 日本国語教育学会の全国大会にて、単元学習分科会の指定討論者を務めた。 「E S D : 持続可能な開発のための教育」における研修会で、広島大学の学部生・院生や現場教員に向け、講演「クリティカル・シンキングを育む探究の学び～一元的探究から多元的探究へ」を行った。
4 その他 1) 国際会議「クリティカル・シンキングと教育改革」に参加 2) 韓国ソウルにある高麗大学に短期留学 3) 主な論文の引用実績	平成 21 年 3 月 平成 24 年 10 月 平成 24 年 平成 25 年 平成 25 年 平成 28 年	U S A のカリフォルニア州、バークレーで開催されたクリティカル・シンキング財団 (Foundation for Critical Thinking) 主催の「International Conference on Critical Thinking and Education Reform」に参加し、研修を受けた。 教育学研究科の英語の授業を受講し、英語による研究発表をした。また、韓国の教育・文化施設を見学した。 3 論文が 4 文献に引用されているのが確認できる。 【被引用文献】 ①「さまざまな情報から意見を創造する——単元『バリアフリー社会に思う』の実践から」(酒井, 2005) ②「多様化社会における多重論理の哲学的探究—R. Paul のクリティカル・シンキング理論の分析」(酒井, 2010) ③「相対的な価値判断の多様性における問題探究力—Paul, R. のクリティカルシンキングによる文学単元を基に」(酒井, 2011) 【引用文献】 ①樋口直宏 (2012)「日本における批判的思考研究の動向と課題—教育学を中心に—」『教育方法学研究』17 号, 教育方法学研究会, pp. 199 - 225 ②道田泰司 (2013)「批判的思考教育の展望」『教育心理学年報』, 日本教育心理学会, pp. 128-139 ③樋口直宏 (2013)『批判的思考指導の理論と実践—アメリカにおける思考技能指導の方法と日本の総合学習への適用』学文社 ④浜本純逸監修・田中宏幸編『「書くこと」の学習指導—実践史をふまえて』溪水社

研 究 業 績 等 に 関 する 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) 1) 『読書生活者を育てる』(再掲)	共著	平成 17 年 7 月	東洋館出版社	読書生活者の育成を目的とした国語教育の理論と実践の書。 【担当部分】 ①「宮沢賢治のオノマトペ・マジックイメージを広げ楽しむ」 pp. 82-91 ②「バリアフリー社会に思う一意見を創る(読む・分析・考察・話し合う)」 pp. 146-159 【編著】安居總子・東京都中学校青年国語研究会編著 【分担執筆】倉澤栄吉・甲斐利恵子・酒井雅子・金子百合子・広野昭甫・他 9 名
2) 『「話すこと・聞くこと」「書くこと」指導の方法——中学校国語学習指導書別冊』(再掲)	共著	平成 18 年 2 月	光村図書	光村図書『中学国語』の検定教科書の授業指導書。現場の国語教師に向けて光村図書が企画・出版した。「報告」の章を担当。いずれも、意思表明を含む単元学習の開発。 【担当部分】報告の章： ①「世代を超えて受け継ぐもの——『戦争の話』報告会」 pp. 114-117 ②「『杜子春』の自分さがし」をめぐって——文学作品で人間を語る」 pp. 118-125 ③「新聞を読む——メディア・リテラシーで意見を育てる」 pp. 126-148 【編著】安居總子 【分担執筆】酒井雅子を含む公立中学校教員 8 名
3) 『国語教育文献総合目録』	共著	平成 20 年 2 月	溪水社	昭和 33 年～平成 19 年に出版された国語教育関連の文献目録集。 【担当部分】共同研究のため抽出不可。 【編著】早稲田大学浜本純逸研究室編
4) 『クリティカル・シンキング教育——探究型の思考力と態度を育む』エウプラクシス叢書 2	単著	平成 29 年 2 月	早稲田大学出版部	早稲田大学の助成を受けて出版した学術研究書。アメリカの多角的探究の理論を基に、クリティカル・シンキング教育の内容と方法を論じた。教科教育および「子供のための哲学」教育の 2 アプローチから論じ、日本への多角的探究教育の導入を目指した。
(学術論文) 1) 「さまざまな情報から意見を創造する——単元『バリアフリー社会に思う』の実践から」	単著	平成 17 年 6 月	『国語教育研究』398 号, 日本国語教育学会, pp. 16-21	バリアフリー社会をテーマにした、多資料・多活動・個別化を旨とする総合単元学習の実践の検討。障害者問題に対し「公共の福祉」の下で意見を構築することを目的とした。そのために、①本・新聞記事・インターネット・インタビュー等の情報を活用したポスター制作、②ポスターセッション、③新聞記事が提起する障害者問題に対して、共感的かつ客観的に考える紙上討論会、④意見文の執筆、⑤意見文の評価・交流を行った。以上を、創造的読書と捉えた。
2) 「価値を含む問題探究における思考スキル学習の有効性と限界——クリティカル・シンキングの二学習モデルの分析から」	単著	平成 22 年 7 月	『国語教育研究』459 号, 日本国語教育学会, pp. 50-57	国語科教育に思考スキルを導入するための二つの教育方法として、スキルを明示的に導入する導入法、スキルを物語教材を使って学習する一般法を分析し考察した。

<p>3) 「多様化社会における多重論理の哲学的探究——R. Paul のクリティカル・シンキング理論の分析」 (査読あり)</p>	<p>単著</p>	<p>平成 22 年 9 月</p>	<p>『教育学研究科紀要』別冊 18 号-1, 早稲田大学教育学研究科, pp. 213-224</p>	<p>R. ポールは、クリティカル・シンキング研究領域では被引用数が R. エニスに次いで多く、また北米のクリティカル・シンキング運動の主導者として、アメリカのクリティカル・シンキング教育を推進する哲学者である。本稿は、彼の、哲学的探究ともいえる多重論理の探究理論を明らかにした。多様な考えを認め合うだけでなく、対立する考えの統合によって自己の信念の再構築、民主社会の構築をめざす。価値の多様化が進む国際化社会において、この探究力は、一層求められると指摘した。</p>
<p>4) 「相対的な価値判断の多様性における問題探究力——Paul, R. のクリティカルシンキングによる文学単元を基に」 (査読あり)</p>	<p>単著</p>	<p>平成 23 年 10 月</p>	<p>『国語科教育』70 集, 全国大学国語教育学会, pp. 36-43</p>	<p>幼稚園から高校までの、クリティカル・シンキング方略(スキル・能力・態度)を導入した R. ポールの文学教材の指導案および文学作品を翻訳・分析した。そして、探究学習の方法知として、Ⅲ類型・10型を抽出した。すなわち、Ⅰ「作品の空所から問いを誘発して探究する読み」—多義型・暗示型・未完の結末型・逆転の結末型、Ⅱ「対比によって問いを立て、探究する読み」—対比帰納型・対比類推型、Ⅲ「価値の問題探究の読み」—論証評価型・基準評価型・対話弁証法型・起源遡求型である。これらの文学の学習は、多様な価値観を比較・評価するための探究力を育成すると捉えた。</p>
<p>5) 「R. ポールの批判的思考教育における文学教材の価値概念体系」 (査読あり)</p>	<p>単著</p>	<p>平成 25 年 2 月</p>	<p>『読書科学』215・216 号, 日本読書学会, pp. 44-54</p>	<p>R. ポールのランゲージ・アーツのカリキュラム構造と文学学習の内容知である概念体系を明らかにし、それらを基に、ポールの教育思想を考察した。まず、指導案の学習目標と主要な問いから、授業で探究する概念を抽出し、それらを4カテゴリーに分析、検討した。これにより、カリキュラム構造はスパイラルであること、教育思想は国際的な民主社会を構築する資質の育成にあることを明らかにした。</p>
<p>6) 「M. リップマンの『子供のための哲学』における探究力——中核教材『ハリー・シュートトゥルマイヤーの発見』と指導書の分析」 (査読あり)</p>	<p>単著</p>	<p>平成 25 年 9 月</p>	<p>『教育学研究科紀要』別冊 21 号-1, 早稲田大学教育学研究科, pp. 129-139</p>	<p>小学校から高校までの M. リップマンの「子供のための哲学」教育のカリキュラムを研究対象とした。本稿は、小学校高学年の物語教材『ハリー・シュートトゥルマイヤーの発見』と指導書を分析し、探究の方法知を明らかにした。その方法知は、哲学的探究、価値的探究、科学的探究の包括的探究力と、それを支える推論スキル・精神活動・態度である。この哲学教育の導入により、探究学習と推論の質の向上が期待できると指摘した。</p>
<p>7) 「探究学習における『哲学的』討論の理論的根拠——リップマンの研究による『対話』概念を中心に」 (査読あり)</p>	<p>単著</p>	<p>平成 26 年 3 月</p>	<p>『国語教育史研究』14 号, 国語教育史学会, pp. 31-40</p>	<p>探究学習の指導法として、論証の合理性を評価する問い・複数の論証を組織化する問いを發して「対話」を行う討論指導がある。これは、教科教育の「探究を行う」学習、思考教育の「汎用性をもつ探究力を学ぶ」学習の指導法として機能する。本稿は、探究学習が討論で行われる理論的根拠を、集団探究と音声言語の探究の二観点から、デューイ、L. ネルソン、G.H. ミード、ヴィゴツキーの文献に基づいて明らかにした。そして、「哲学的」討論の普及には、教師教育</p>

<p>8) 「人間教育としての、綴り方教育再考——中学校国語科における自己表現系作文の通年指導」</p> <p>9) 「探究教育に国語科教育はどう切り込んでいくか——説明的文章の合理性評価から探究の学びへ」</p>	<p>単著</p> <p>単著</p>	<p>平成 28 年 2 月</p> <p>平成 30 年 8 月</p>	<p>『国語教育研究』526 号, 日本国語教育学会, pp. 50-57</p> <p>『国語教育研究』556 号, 日本国語教育学会, pp. 28-31</p>	<p>が問われると指摘した。</p> <p>OECDの第二回国際教員指導環境調査によれば、参加国中、日本は勤務時間が最も長い。これを受け、多忙であればこそ、人間教育の特長をもつ伝統的な綴り方教育の価値を再考すべきだと主張した。そして、中学校段階における自己表現系作文の年間指導の在り方を、実践を基に提案した。</p> <p>次期の国語科学習指導要領では、論理的思考・批判的思考が強調されている。それを踏まえ、非形式論理を理論基盤とする論証スキルを適用して、説明文・論説文のクリティカル・リーディングの実例を示した。そして、合理性評価が、多元的な探究の学びを開始させることを明らかにした。この探究の学びは、複数教科と連携して行われなければならないと指摘した。</p>
<p>(学会発表)</p> <p>1) 「意見の創出と組織化に関する研究——社会を拓く問題解決型意見の深化拡充」</p> <p>2) 「ニュース検証の学びにみるクリティカル・シンキングの可能性」</p> <p>3) 「多様化社会における問題探究プロセス——哲学的クリティカル・シンキング理論の分析」</p> <p>4) 「国際化の中の伝統的言語文化教育の位置——中学校、古典単元の実践を中心に」</p> <p>5) 「哲学的クリティカルシンキングによる国語教育の実像——指導モデル案にみる教材観を中心に」</p> <p>6) 「探究型読み単元にみる哲学的クリティカル・シンキングの思想——R. ポールによる授業プランの分析から」</p> <p>7) 「文学教材単元にみる哲学的探究の実像——R. Paul のクリティカルシンキング・ハンドブックの分析②から」</p> <p>8) 「哲学教育と言語教育の親和性——M. リップマンの『子供のための哲学』におけるノベル分析」</p> <p>9) “Abilities of Inquiring</p>	<p>単独</p> <p>単独</p> <p>単独</p> <p>単独</p> <p>単独</p> <p>単独</p> <p>単独</p> <p>単独</p> <p>単独</p>	<p>平成 19 年 5 月</p> <p>平成 20 年 5 月</p> <p>平成 21 年 5 月</p> <p>平成 21 年 6 月</p> <p>平成 21 年 10 月</p> <p>平成 21 年 11 月</p> <p>平成 22 年 10 月</p> <p>平成 24 年 5 月</p> <p>平成 24 年 10 月</p>	<p>第 112 回 全国大学国語教育学会 (宇都宮大学)</p> <p>第 114 回 全国大学国語教育学会 (茨城大学)</p> <p>第 116 回 全国大学国語教育学会 (秋田大学)</p> <p>早稲田大学国語教育学会</p> <p>第 117 回 全国大学国語教育学会 (愛媛大学)</p> <p>第 46 回 国語教育史学会例会 (東京学芸大学附属国際中等教育学校)</p> <p>第 119 回 全国大学国語教育学会 (鳴門教育大学)</p> <p>第 122 回 全国大学国語教育学会 (筑波大学)</p> <p>Korea</p>	<p>総合単元における意見文指導における実践的考察を発表した。</p> <p>メディア・リテラシーにおける批判的な情報検証において、情報の提供者・発信者・受容者に確認できる認知バイアス、ヒューリスティックを分析し、反省性を基盤とする批判的思考教育の必要性を発表した。</p> <p>R. ポールのクリティカルシンキング理論の分析と考察を発表した。</p> <p>新学習指導要領における日本の伝統文化に関する教育の在り方を、古典学習の実践を踏まえて発表した。</p> <p>R. ポール理論によるクリティカルシンキングを導入したランゲージ・アーツ教育の構造を発表した。</p> <p>R. ポール理論によるクリティカルシンキングを導入した、文学の探究型読み単元において、探究の方法知の分析・考察を発表した。</p> <p>R. ポール理論によるクリティカルシンキングを導入した、文学の探究型読み単元において、探究の内容知である概念の分析・考察を発表した。</p> <p>M. リップマンの「子供のための哲学」の物語教材分析し、哲学教育を導入した国語教育の在り方を発表した。</p> <p>R. ポールの文学教材による教育に基づき、</p>

to Integrate Value-Judgments in Diversification of Society”		月	University	多様化社会における価値判断の教育を検討し、国際化社会における必要性を主張した。 (英語によるプレゼンテーション)
10) 「探究学習における『哲学的』討論の概念的根拠——『哲学的』討論に関する教育プログラムの比較から」	単独	平成 25 年 5 月	第 124 回 全国大学国語教育学会 (弘前大学)	クリティカル・シンキング教育において、主要な言語活動は「対話」による「哲学的」討論にある。まず、この討論が、非形式論理を基盤とする問いを発して、共同体で探究を行う討論であることを明らかにした。そして、探究が討論で行われる根拠を、集団探究および音声言語による探究の観点から明らかにした。
11) 「哲学的討論で求められる教師のファシリテート力—ソクラテック・メソッドと P4C の比較から」	単独	平成 30 年 8 月	第 1 回 日本哲学プラクティス学会 (明治大学)	哲学的討論の原点ともいえる L. ネルソン (1882 - 1927) のソクラテック・メソッドと、ソクラテック・メソッドを導入した学校教育の成功例と評される M. リップマン (1922 - 2010) の「子供のための哲学」教育プログラムを比較検討することで、初等中等教育で哲学的討論を行う際、教師に求められるファシリテート力を、問答の技と態度の点から明らかにした。
12) 「ポスト・ノーマル・サイエンスに向けた教育アプローチの開発——市民として近未来の日本のエネルギー社会を問う」	単独	平成 30 年 9 月	第 54 回 日本教育方法学会 (和歌山大学)	個々のポスト・ノーマル・サイエンスに対し、市民として、研究開発の推進や社会への導入について社会的意思決定を行うための教育アプローチを、リスク・アセスメントを理論的枠組みに据えて開発した。そして、本アプローチを原子力エネルギー問題に適用し、探究型学習「近未来の日本のエネルギー社会を問う」として具体的に提案した。
(その他の論考)				
1) 書評『活用・探究型授業を支える論証能力』	単著	平成 22 年 3 月	『早稲田大学国語教育研究』第 30 集, 早稲田大学国語教育学会, p. 150	光野公司郎著の左記の著書を、価値の多様化が進む現代において、日本の思考教育に一石を投じると評した。
2) 現場から「国語教員として東日本大震災に思う」	単著	平成 24 年 3 月	『早稲田大学国語教育研究』第 32 集, 早稲田大学国語教育学会, p. 70	東日本大震災をテーマにした自他の複数の実践単元に基づき、一市民としての国語教員の社会的資質について指摘した。
3) 書評『実践国語科教育法—「楽しく、力のつく」授業の創造』	単著	平成 25 年 3 月	『早稲田大学国語教育研究』第 33 集, 早稲田大学国語教育学会, p. 71	教職科目「国語科教育法」の教科書としての、2 つの特徴を明らかにした。
4) 「教師の熱意が伝わる発表プログラム——社会に生きる力を育む単元の実践」	単著	平成 29 年 11 月	『国語教育研究』547 号, 日本国語教育学会, p. 93	リテラチャーサークルによる読書会と意見を統合した実践、および、主体性の尊重・付きたい力の明確化等を徹底した実践に対し、社会に生きる力を育む単元であると評価した。
:				

(注) 「研究業績等に関する事項」には、書類の作成時において未発表のものを記入しないこと。